

交付運用報告書

ハッピーエイジング・ファンド

ハッピーエイジング20 ハッピーエイジング30 ハッピーエイジング40 ハッピーエイジング50 ハッピーエイジング60

追加型投信／内外／資産複合

作成対象期間（2014年7月16日～2015年7月15日）

第15期（決算日 2015年7月15日）

第15期末（2015年7月15日）					
	ハッピーエイジング20	ハッピーエイジング30	ハッピーエイジング40	ハッピーエイジング50	ハッピーエイジング60
基準価額	13,543円	13,944円	13,816円	13,347円	12,399円
純資産総額	8,801百万円	10,450百万円	12,378百万円	5,534百万円	3,292百万円
騰落率※	23.9%	20.1%	14.4%	9.3%	4.3%
期中分配金合計	0円	0円	0円	0円	0円

※騰落率は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「ハッピーエイジング・ファンド」は、このたび第15期の決算を行いました。

当ファンドは、日本及び世界各国の株式や公社債を実質的な主要投資対象とし、中長期的に信託財産の着実な成長を目標として運用を行います。当作成期もそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。

<お知らせ>

2014年12月1日以降を作成基準日とする運用報告書が、「交付運用報告書」と「運用報告書（全体版）」に二段階化されました。本書は「交付運用報告書」（投資信託及び投資法人に関する法律第14条第4項の書面）です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書（全体版）は下記の方法で閲覧いただけます。

なお、ご請求いただいた場合には交付いたしますので、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧方法>

右記URLにアクセスし、「ファンド検索」等から、当ファンドのページを表示させることにより、運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。



損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル



<http://www.sjnk-am.co.jp/>

お問い合わせ先



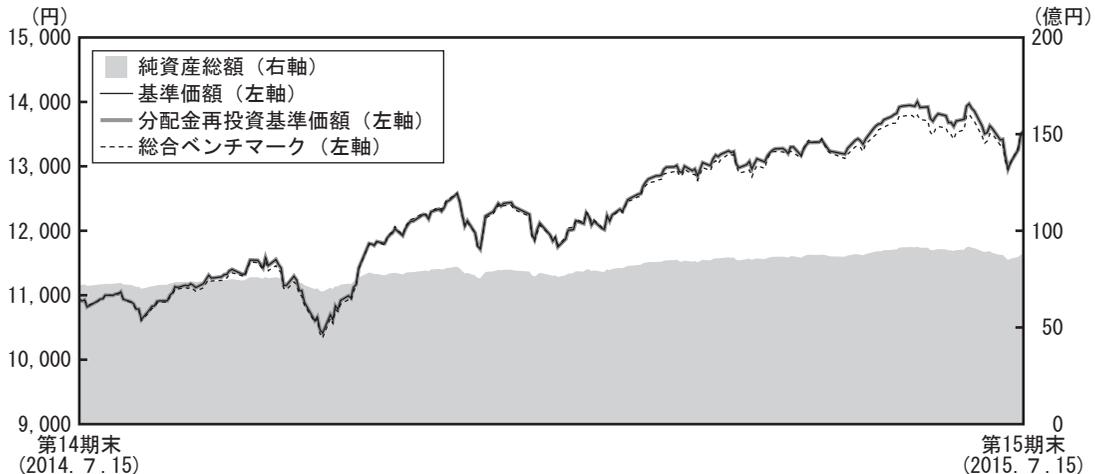
営業第二部 03-5290-3519

（受付時間 営業日の午前9時～午後5時）

運用経過

■ 基準価額の推移

(ハッピーエイジング20)



第15期首：10,930円

第15期末：13,543円 (期中分配金合計0円)

騰落率：23.9% (分配金再投資基準価額ベース)

- ・分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2014年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- ・当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

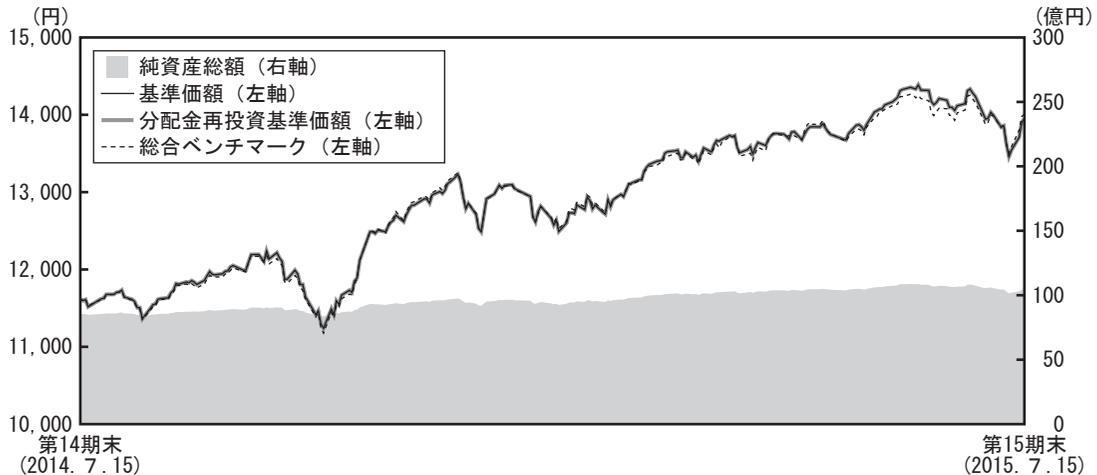
■ 基準価額の主な変動要因

(ハッピーエイジング20)

投資対象である全てのマザーファンド等の基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額は上昇しました。国内株式や外国株式などの上昇が主な値上がり要因となりました。

■ 基準価額の推移

(ハッピーエイジング30)



第15期首：11,614円

第15期末：13,944円（期中分配金合計0円）

騰落率：20.1%（分配金再投資基準価額ベース）

- ・分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2014年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- ・当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

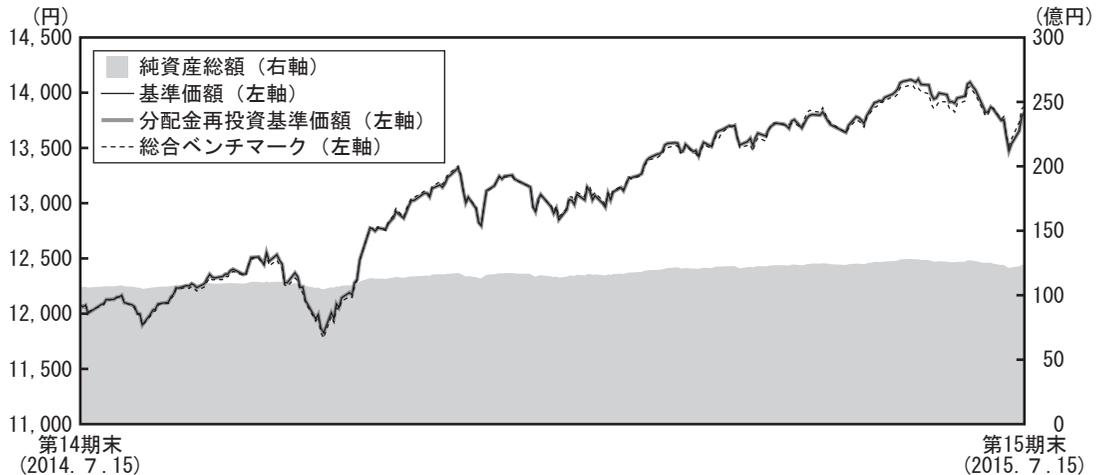
■ 基準価額の主な変動要因

(ハッピーエイジング30)

投資対象である全てのマザーファンド等の基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額は上昇しました。国内株式や外国株式などの上昇が主な値上がり要因となりました。

■ 基準価額の推移

(ハッピーエイジング40)



第15期首：12,075円

第15期末：13,816円（期中分配金合計0円）

騰落率：14.4%（分配金再投資基準価額ベース）

- ・分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2014年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- ・当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

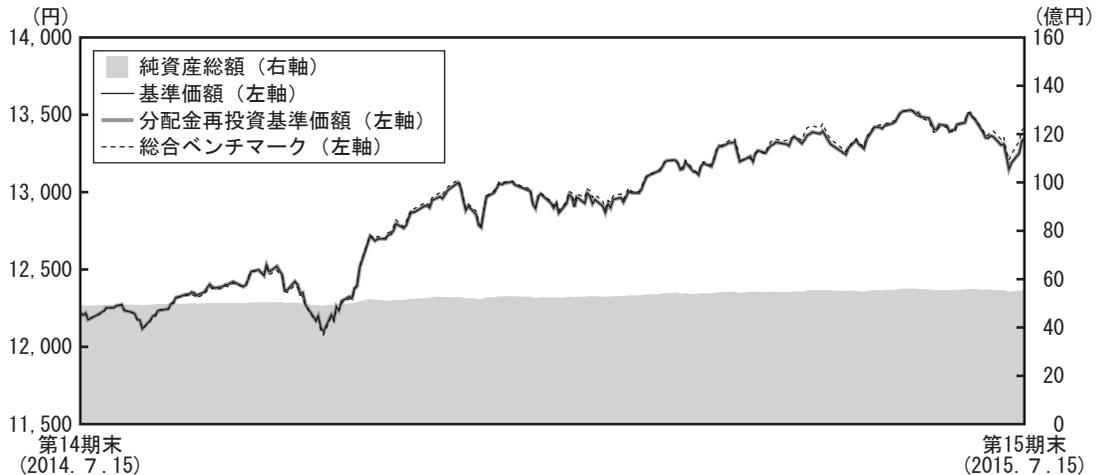
■ 基準価額の主な変動要因

(ハッピーエイジング40)

投資対象である全てのマザーファンド等の基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額は上昇しました。国内株式や外国株式などの上昇が主な値上がり要因となりました。

■ 基準価額の推移

(ハッピーエイジング50)



第15期首：12,215円

第15期末：13,347円（期中分配金合計0円）

騰落率：9.3%（分配金再投資基準価額ベース）

- ・分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2014年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- ・当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

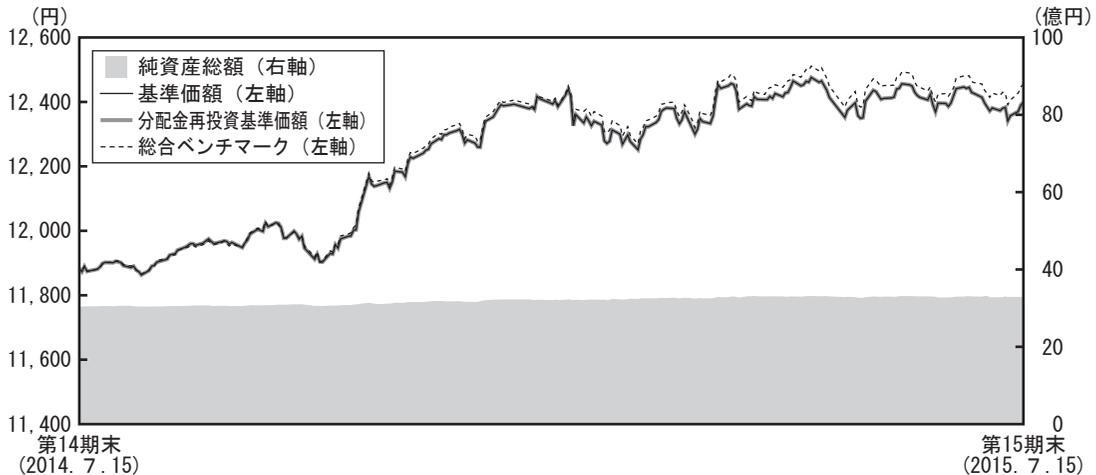
■ 基準価額の主な変動要因

(ハッピーエイジング50)

投資対象である全てのマザーファンド等の基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額は上昇しました。国内株式や外国株式などの上昇が主な値上がり要因となりました。

■ 基準価額の推移

(ハッピーエイジング60)



第15期首：11,883円

第15期末：12,399円（期中分配金合計0円）

騰落率：4.3%（分配金再投資基準価額ベース）

- ・分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2014年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- ・当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

■ 基準価額の主な変動要因

(ハッピーエイジング60)

投資対象である全てのマザーファンド等の基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額は上昇しました。国内債券や国内株式などの上昇が主な値上がり要因となりました。

■ 基準価額の主な変動要因

(損保ジャパン日本株マザーファンド) (2014年7月16日～2015年4月9日)

騰落率(2014年7月16日～2015年4月9日)は+25.6%となりました。当ファンドの騰落率はベンチマークを下回りましたが、同期間の国内株式市場が上昇したことから、当ファンドの基準価額も上昇しました。

個別銘柄ではトヨタ自動車、KDDI、MS&ADインシュアランスグループホールディングス、三菱ケミカルホールディングス、ヤマダ電機、三菱UFJフィナンシャル・グループの保有がプラス要因になりました。

(損保ジャパン-DIAM日本株アクティブ・マザーファンド) (2014年7月16日～2015年4月13日)

騰落率(2014年7月16日～2015年4月13日)は+25.2%となりました。国内株式市場全体が上昇したことから、基準価額も上昇しました。

(SJAMラージキャップ・バリュール・マザーファンド) (2015年4月14日～2015年7月15日)

騰落率(2015年4月14日～2015年7月15日)は+5.0%となりました。当ファンドの騰落率はベンチマークを下回りましたが、同期間の国内株式市場が上昇したことから、当ファンドの基準価額も上昇しました。

個別銘柄では、第一生命保険、みずほフィナンシャルグループ、三井住友フィナンシャルグループ、JXホールディングス、イオン、三菱UFJフィナンシャル・グループなどの保有がプラス要因になりました。

(SJAMスモールキャップ・マザーファンド) (2015年4月14日～2015年7月15日)

騰落率(2015年4月14日～2015年7月15日)は+1.0%となりました。ファンドの騰落率はベンチマークを下回りましたが、同期間の国内株式市場が上昇したことから、当ファンドの基準価額も上昇しました。

個別銘柄では、青山商事、日立キャピタル、コスモ石油、ケーズホールディングス、ユニークグループ・ホールディングス、阪和興業などの保有がプラス要因になりました。

(損保ジャパン日本債券マザーファンド)

期中の騰落率は+2.3%となりました。

利回りが低下(価格は上昇)したことから基準価額は上昇しました。

(損保ジャパン-TCW外国株式マザーファンド)

期中の騰落率は+28.8%となりました。

ファンドで保有する株式の価格上昇に加えて、円安・ドル高等の為替要因がプラスに寄与しました。

(損保ジャパン外国債券(為替ヘッジなし)マザーファンド)

期中の騰落率は+11.8%となりました。

円安ドル高の進行や債券利回りの低下(価格は上昇)から基準価額は上昇しました。

■ 1万口当たりの費用明細 (ハッピーエイジング20)

項目	第15期		項目の概要
	(2014年7月16日～2015年7月15日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	215円	1.742%	(a) 信託報酬 = $\frac{\text{期中の平均基準価額} \times \text{信託報酬率 (年率)} \times \text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は12,325円です。
(投信会社)	(89)	(0.718)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(116)	(0.938)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(11)	(0.086)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	14	0.116	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(株式)	(14)	(0.113)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(投資信託受益証券)	(0)	(0.003)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	1	0.006	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(株式)	(1)	(0.006)	有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	4	0.030	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(3)	(0.025)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(0)	(0.003)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	233	1.894	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(ハッピーエイジング30)

項目	第15期		項目の概要
	(2014年7月16日～2015年7月15日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	202円	1.562%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は12,925円です。 ファンドの運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(投信会社)	(83)	(0.644)	
(販売会社)	(107)	(0.832)	
(受託会社)	(11)	(0.086)	
(b) 売買委託手数料	12	0.093	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(12)	(0.090)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.003)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	0	0.004	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.004)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	4	0.028	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用 監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用 信託事務の処理にかかるその他の費用等
(保管費用)	(3)	(0.024)	
(監査費用)	(0)	(0.003)	
(その他)	(0)	(0.001)	
合計	218	1.686	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万円当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(ハッピーエイジング40)

項目	第15期		項目の概要
	(2014年7月16日～2015年7月15日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	180円	1.379%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は13,085円です。 ファンドの運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(投信会社)	(75)	(0.573)	
(販売会社)	(96)	(0.730)	
(受託会社)	(10)	(0.075)	
(b) 売買委託手数料	8	0.064	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(8)	(0.062)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.003)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	0	0.003	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.003)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	3	0.020	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用 監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用 信託事務の処理にかかるその他の費用等
(保管費用)	(2)	(0.017)	
(監査費用)	(0)	(0.002)	
(その他)	(0)	(0.000)	
合計	192	1.465	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万円当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(ハッピーエイジング50)

項目	第15期		項目の概要
	(2014年7月16日～2015年7月15日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	154円	1.195%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は12,901円です。 ファンドの運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(投信会社)	(67)	(0.522)	
(販売会社)	(79)	(0.609)	
(受託会社)	(8)	(0.065)	
(b) 売買委託手数料	5	0.038	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(5)	(0.037)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.001)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	0	0.001	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.001)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	2	0.016	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用 監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用 信託事務の処理にかかるその他の費用等
(保管費用)	(1)	(0.011)	
(監査費用)	(1)	(0.005)	
(その他)	(0)	(0.000)	
合計	161	1.251	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万円当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(ハッピーエイジング60)

項目	第15期		項目の概要
	(2014年7月16日～2015年7月15日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	124円	1.012%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は12,233円です。 ファンドの運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(投信会社)	(56)	(0.460)	
(販売会社)	(61)	(0.499)	
(受託会社)	(7)	(0.054)	
(b) 売買委託手数料	2	0.013	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(2)	(0.013)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	0	0.001	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.001)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	1	0.010	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用 監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用 信託事務の処理にかかるその他の費用等
(保管費用)	(1)	(0.005)	
(監査費用)	(1)	(0.005)	
(その他)	(0)	(0.000)	
合計	127	1.036	

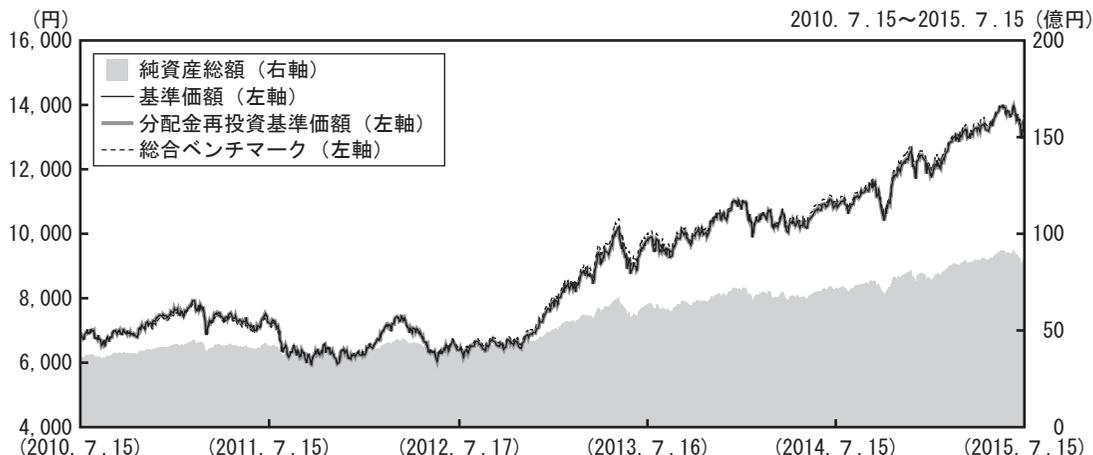
(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■最近5年間の基準価額等の推移

(ハッピーエイジング20)

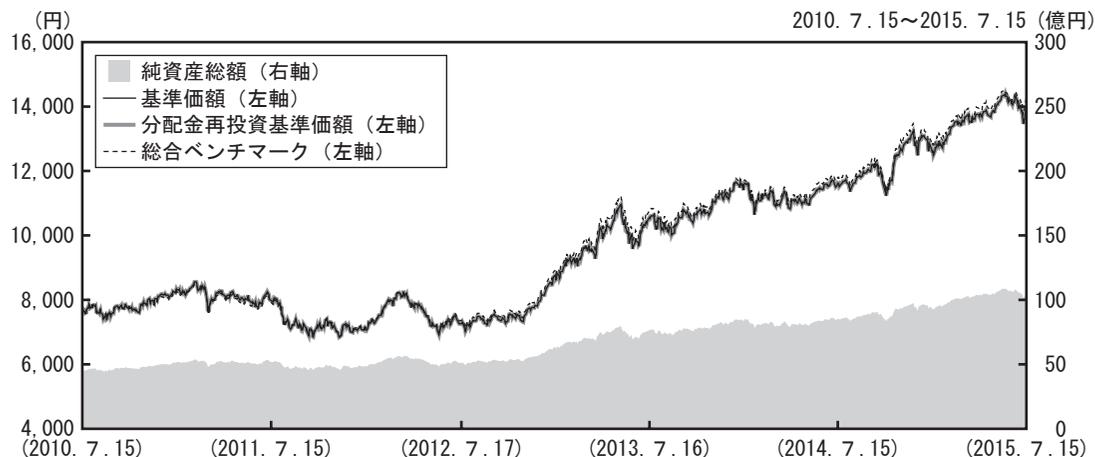


- ・分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2010年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- ・当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日	2010年7月15日 決算日	2011年7月15日 決算日	2012年7月17日 決算日	2013年7月16日 決算日	2014年7月15日 決算日	2015年7月15日 決算日
基準価額 (円)	6,954	7,237	6,395	9,828	10,930	13,543
期中分配金合計 (税引前) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	4.1	△ 11.6	53.7	11.2	23.9
ベンチマーク騰落率 (%)	—	3.0	△ 9.3	54.1	10.8	23.9
純資産総額 (百万円)	3,719	4,207	4,034	6,375	7,212	8,801

ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(ハッピーエイジング30)

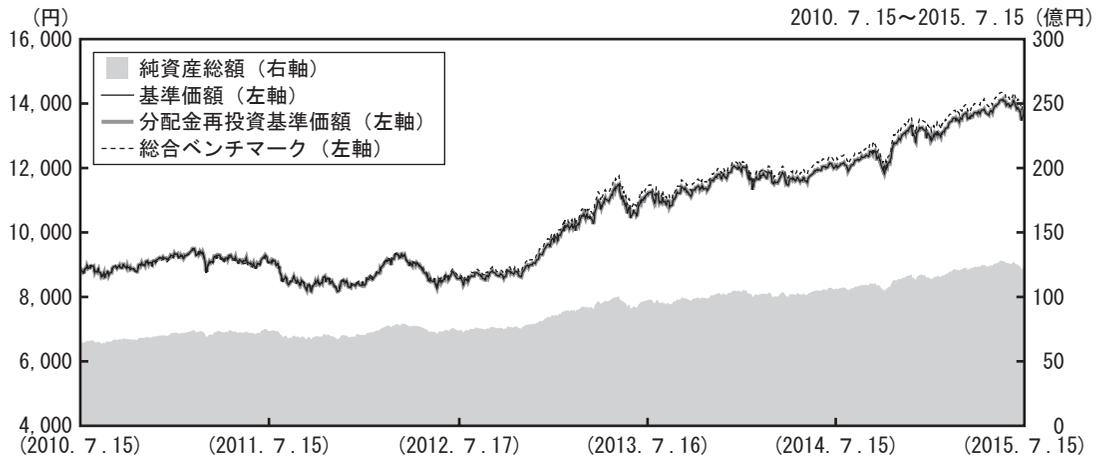


- ・分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2010年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- ・当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日	2010年7月15日 決算日	2011年7月15日 決算日	2012年7月17日 決算日	2013年7月16日 決算日	2014年7月15日 決算日	2015年7月15日 決算日
基準価額 (円)	7,782	7,985	7,258	10,552	11,614	13,944
期中分配金合計 (税引前) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	2.6	△ 9.1	45.4	10.1	20.1
ベンチマーク騰落率 (%)	—	1.8	△ 7.1	46.2	9.7	20.6
純資産総額 (百万円)	4,610	5,192	5,099	7,661	8,543	10,450

ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(ハッピーエイジング40)

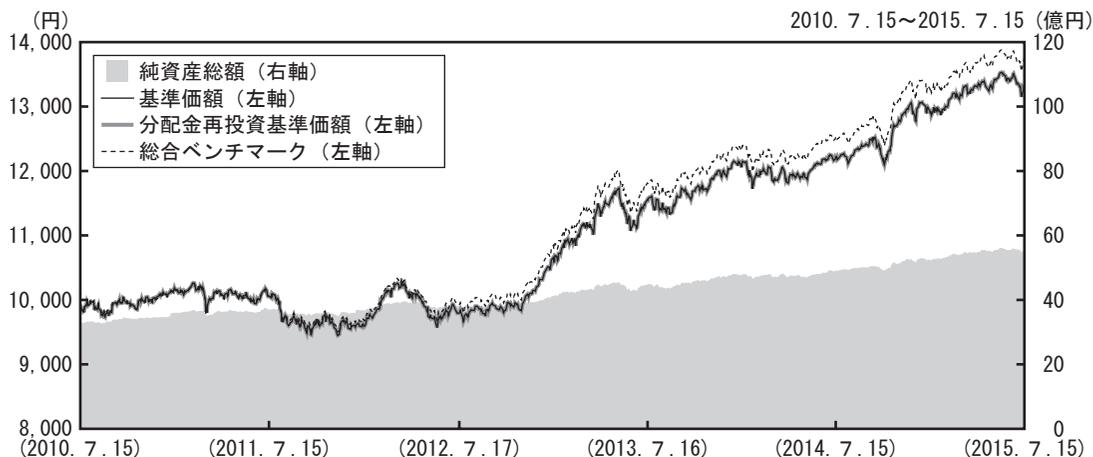


- ・分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2010年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- ・当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日	2010年7月15日 決算日	2011年7月15日 決算日	2012年7月17日 決算日	2013年7月16日 決算日	2014年7月15日 決算日	2015年7月15日 決算日
基準価額 (円)	8,909	9,092	8,565	11,196	12,075	13,816
期中分配金合計 (税引前) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	2.1	△ 5.8	30.7	7.9	14.4
ベンチマーク騰落率 (%)	—	1.7	△ 4.2	31.6	7.9	14.9
純資産総額 (百万円)	6,550	7,355	7,397	9,756	10,651	12,378

ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(ハッピーエイジング50)

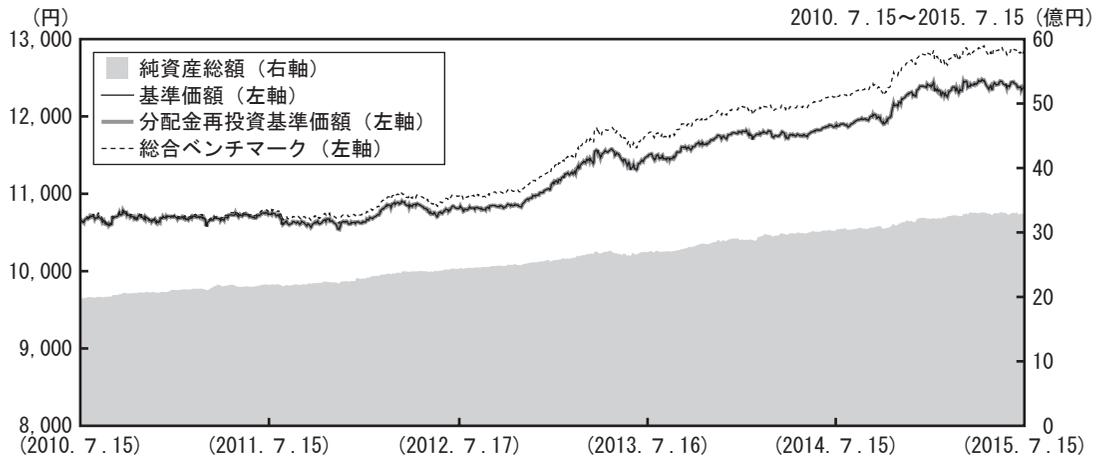


- ・分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2010年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- ・当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日	2010年7月15日 決算日	2011年7月15日 決算日	2012年7月17日 決算日	2013年7月16日 決算日	2014年7月15日 決算日	2015年7月15日 決算日
基準価額 (円)	9,927	10,057	9,795	11,555	12,215	13,347
期中分配金合計 (税引前) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	1.3	△ 2.6	18.0	5.7	9.3
ベンチマーク騰落率 (%)	—	1.3	△ 1.3	19.0	6.0	9.8
純資産総額 (百万円)	3,309	3,702	3,809	4,480	4,908	5,534

ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(ハッピーエイジング60)



- ・分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2010年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- ・当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日		2010年7月15日 決算日	2011年7月15日 決算日	2012年7月17日 決算日	2013年7月16日 決算日	2014年7月15日 決算日	2015年7月15日 決算日
基準価額	(円)	10,676	10,737	10,812	11,485	11,883	12,399
期中分配金合計 (税引前)	(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	0.6	0.7	6.2	3.5	4.3
ベンチマーク騰落率	(%)	—	1.0	1.8	7.3	4.2	4.8
純資産総額	(百万円)	1,977	2,184	2,434	2,695	3,031	3,292

ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

■投資環境

1. 国内株式市況

TOPIXは29.3%の上昇となりました。

期首は日米の金融政策に対する姿勢の相違が意識され、円安ドル高が進行したことで国内株式市場は上昇しました。10月には世界景気の先行き警戒感や地政学リスクが意識され、一時的に市場は下落しましたが、10月末の日銀による追加金融緩和や消費税増税の先送りが好感され、国内株式市場は大きく反発上昇しました。年明け以降は、ギリシャ債務問題の先行き不透明感が警戒される局面がありましたが、年金基金などからの株式市場への資金流入や円安・原油安による国内企業の業績拡大への期待が高まる中、株主還元を発表した企業を中心に5月末まで株価は上昇を続けました。期末にはギリシャへの金融支援を巡る協議が難航し、一旦市場は下落しましたが、協議の進展が伝わると反発上昇しました。

2. 国内債券市況

日銀による国債の大量買入れを背景に国内の金利は低下しました。

2014年10月末に、日銀は、原油価格の大幅下落がデフレマインドの転換を遅延させるリスクを未然に防ぐために、追加緩和を実施しました。これを受けて国内金利の低下スピードは加速しました。しかし、2015年1月の政策決定会合で日銀が追加緩和を見送ると、金利は上下にフレを伴って上昇しました。

その後も、欧米の金利上昇の影響を受けて、徐々にレンジが上方シフトしたものの、前期末と比べて金利は低下しました。

3. 外国株式市況

○米国株式市場

米国株式市場は、ロシア・ウクライナ情勢や中東情勢の不透明感を受けた地政学リスクの高まり等から、軟調に推移して始まりしました。

8月中旬以降は、米国の経済指標が市場予想を上回ったことやECB（欧州中央銀行）による追加緩和への期待等から堅調に推移したものの、9月のFOMC（米連邦公開市場委員会）で政策金利の見通しが引き上げられたこと等を受けて、大きく下落しました。

10月中旬以降は、米国のGDP成長率の改善や日本銀行による追加金融緩和を受けて反転し上昇しました。12月にかけて、ロシア・ウクライナ情勢や原油安等の懸念から一時的に反落しましたが、その後はECBによる量的緩和の実施や早期利上げ観測の後退等から緩やかに上昇基調を続け、6月のギリシャ債務問題による下落も小幅にとどまり、期末を終えました。

○欧州株式市場

欧州株式市場は、期初からロシアとの経済情勢が緊迫化する等、軟調に推移して始まりしました。8月中旬以降は、ECBによる追加緩和への期待が高まり、上昇基調となりましたが、9月にスコットランドの独立を巡る国民投票に対する不透明感が懸念されたこと等を受けて再び下落しました。

10月中旬以降は、ECBの追加緩和期待が強まる中で、ドイツの景況感指数が改善したこと等を背景に、欧州の株式市場は堅調に推移しました。12月にかけて、ロシア・ウクライナ情勢や原油安等の懸念から一時的に反落しましたが、2015年1月にECBが量的緩和策の実施を決定したことを受け、大きく上昇しました。6月にギリシャ債務問題で反落したものの、7月に入ると、一旦ギリシャのユーロ離脱懸念が落ち着き、再び反発して期末を終えました。

○アジア株式市場

アジア株式市場は、中国の2014年4－6月の実質GDP成長率が堅調であったこと等から、上昇基調で始まりました。8月から9月にかけては、欧米の株式市場が軟調に推移する中、アジア株式市場も軟調に推移しました。10月中旬以降は、欧米の株式市場が上昇したことに加えて、11月に中国人民銀行が2012年7月以来の利下げを実施する等の好材料が市場を下支えしました。

12月上旬以降、原油価格の続落等から市場のリスク回避姿勢が強まり、アジア株式市場は一時的に反落しましたが、2015年に入ると、中国本土・香港間の相互株式取引への期待が強まる等、反転して大きく上昇しました。6月以降は、中国本土・香港の株式市場が急激な上昇に伴う調整から大きく下落したものの、期を通してアジア株式市場は上昇しました。

4. 外国債券市場

○米国債券市場

当期末の米国10年債利回りは、低下（価格は上昇）しました。

期初に2.5%台であった米国10年債利回りは、原油価格の下落を受けて物価の下押し圧力が強まったことや、日欧の金融緩和が強化されたことから低下し、1月末には1.6%台となりました。しかし、その後は、原油価格が下げ止まったことや、米国の雇用環境の改善が続き、2015年中の利上げ開始の可能性が高まったことから、期末には2.3%台まで上昇しました。

○欧州債券市場

当期のドイツ10年債利回りは、低下（価格は上昇）しました。

期初に1.2%台であったドイツ10年債利回りは、ユーロ圏の景気低迷やデフレ懸念の高まりを受けて、ECB（欧州中央銀行）が国債購入を含む追加緩和を実施したことから低下し、4月下旬には0%近傍となりました。しかし、その後は、それまでの過度な利回り低下の反動や、ユーロ圏のデフレ懸念が後退したことから、期末には0.8%台まで上昇しました。

○為替相場

当期の米ドル円相場は、円安ドル高となりました。

期初に101円台であったドル円相場は、日銀が追加金融緩和を実施したことや、米国において雇用環境の改善が続き、2015年中の利上げ開始の可能性が高まったことから、円安ドル高が進行し、期末には123円台となりました。

■当該投資信託のポートフォリオ

各ファンドのアセットアロケーションにつきましては、当社が決定した基準資産配分比率を、各々ほぼ維持する戦略を採りました。

また、4月に約款変更の適用に伴い、各コースを構成する日本株式ファンドにおいて「損保ジャパン日本株マザーファンド」、「損保ジャパン-D I A M日本株アクティブ・マザーファンド」から、「S J A Mラージキャップ・バリュー・マザーファンド」、「S J A Mスモールキャップ・マザーファンド」に組入マザーファンドの変更を実施しました。

ハッピーエイジング20実質組入比率

	実質 組入比率	基本 アロケーション	差
国内債券	2.0%	2.0%	△0.1%
外国債券	5.9%	6.0%	△0.1%
国内株式	51.9%	52.0%	△0.1%
外国株式	34.1%	33.0%	1.1%
エマーヅング株式	4.8%	5.0%	△0.2%
短期資産	1.3%	2.0%	△0.7%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング30実質組入比率

	実質 組入比率	基本 アロケーション	差
国内債券	7.8%	8.0%	△0.2%
外国債券	20.5%	20.0%	0.5%
国内株式	43.7%	44.0%	△0.3%
外国株式	21.6%	21.0%	0.6%
エマーヅング株式	4.9%	5.0%	△0.1%
短期資産	1.6%	2.0%	△0.4%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング40実質組入比率

	実質 組入比率	基本 アロケーション	差
国内債券	33.8%	33.0%	0.8%
外国債券	15.3%	15.0%	0.3%
国内株式	30.6%	31.0%	△0.4%
外国株式	14.3%	14.0%	0.3%
エマーヅング株式	4.9%	5.0%	△0.1%
短期資産	1.1%	2.0%	△0.9%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング50実質組入比率

	実質 組入比率	基本 アロケーション	差
国内債券	57.5%	57.0%	0.5%
外国債券	11.1%	11.0%	0.1%
国内株式	18.9%	19.0%	△0.1%
外国株式	8.4%	8.0%	0.4%
エマーヅング株式	3.0%	3.0%	△0.0%
短期資産	1.1%	2.0%	△0.9%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング60実質組入比率

	実質 組入比率	基本 アロケーション	差
国内債券	82.6%	82.0%	0.6%
外国債券	6.1%	6.0%	0.1%
国内株式	6.0%	6.0%	△0.0%
外国株式	4.2%	4.0%	0.2%
エマーヅング株式	0.0%	0.0%	0.0%
短期資産	1.3%	2.0%	△0.7%
合計	100.0%	100.0%	—

(損保ジャパン日本株マザーファンド) (2014年7月16日～2015年4月9日)

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。しかし、4月9日に純資産残高に対して約60%の資金流出が生じたため、資金流出対応を目的とした株式売却を行っており、4月9日時点の組入比率は39.3%になりました。

当期も、当社独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき、銘柄入替を行いました。

主な購入(ウェイトアップ)銘柄は、みずほフィナンシャルグループ、イオン、富士通などでした。

主な売却(ウェイトダウン)銘柄は、KDDI、三菱ケミカルホールディングス、住友重機械工業などでした。

(損保ジャパン-DIAM日本株アクティブ・マザーファンド) (2014年7月16日～2015年4月13日)

期を通して株式の組入比率を高位に維持し、2015年4月13日に償還しました。

(SJAMラージキャップ・バリュー・マザーファンド) (2015年4月14日～2015年7月15日)

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、98.8%です。

当期も、当社独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき、銘柄入替を行いました。

主な購入(ウェイトアップ)銘柄は、新日鐵住金、コナミ、日立建機などでした。

主な売却(ウェイトダウン)銘柄は、イオン、三菱商事、三菱瓦斯化学などでした。

(SJAMスモールキャップ・マザーファンド) (2015年4月14日～2015年7月15日)

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、98.8%です。

当期も、当社独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき、銘柄入替を行いました。

主な購入(ウェイトアップ)銘柄は、エフ・シー・シー、テレビ東京ホールディングス、UACJなどでした。

主な売却(ウェイトダウン)銘柄は、東海理化電機製作所、青山商事、コスモ石油などでした。

(損保ジャパン日本債券マザーファンド)

期を通して債券の組入比率は概ね高位に維持しました。

金利戦略は、期初より2015年1月中旬までは長期をアンダーウェイトし、超長期をオーバーウェイトする戦略を継続しました。2015年1月下旬から3月までは中期をオーバーウェイトし、長期・超長期をアンダーウェイトする戦略を基本戦略としました。それ以降は20年をオーバーウェイトし、30年超をアンダーウェイトする戦略を基本戦略としました。他の年限は相場の状況に合わせて機動的にポジションを変更しました。

種別戦略は、事業債、円建外債、RMB Sのオーバーウェイト戦略を継続しました。

個別銘柄戦略は、割高な銘柄を売却し、割安な銘柄を購入しました。

(損保ジャパン-T C W外国株式マザーファンド)

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率（対純資産総額比）は、94.1%です。

(損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド)

期を通して債券の組入比率は概ね高位に維持しました。

・国別配分

期を通して、利回り水準の高いイタリアの短中期ゾーンをオーバーウェイトし、利回り水準が低く魅力に乏しいドイツ・フランス等の短中期ゾーンをアンダーウェイトする戦略を継続しました。

・デュレーション戦略

ユーロ圏景気の低迷やインフレ率の低下から、E C Bによる金融緩和が強化されることを見込み、ユーロ圏のデュレーションを長期化する戦略を期初から5月まで継続しました。

なお、為替ヘッジは行っておりません。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当期間、「損保ジャパン日本株マザーファンド」、「損保ジャパンーD I A M日本株アクティブ・マザーファンド」、「損保ジャパン日本債券マザーファンド」、「S J A Mラージキャップ・バリュー・マザーファンド」、「損保ジャパンーTCW外国株式マザーファンド」、「エマージング株式」の騰落率はベンチマーク（日本株式は対T O P I X）を上回りましたが、「S J A Mスモールキャップ・マザーファンド」、「損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド」の騰落率はベンチマーク（日本株式は対T O P I X）を下回りました。

その結果、各ファンドにおける総合ベンチマークとの差異及び差異要因は以下の通りとなりました。

※当期中にはマザーファンドの入替えを行っています。ベンチマークとの差異は、各ベビーファンドが保有していた期間について比較しています。

（ハッピーエイジング20）

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（+23.9%）とほぼ同水準となりました。

【プラス要因】

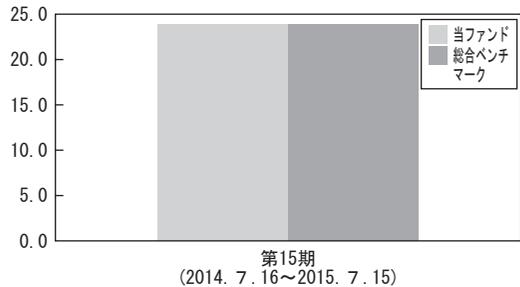
個別資産要因

【マイナス要因】

アロケーション要因

信託報酬等

(%) 基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



（ハッピーエイジング30）

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（+20.6%）を0.6%下回りました。

【プラス要因】

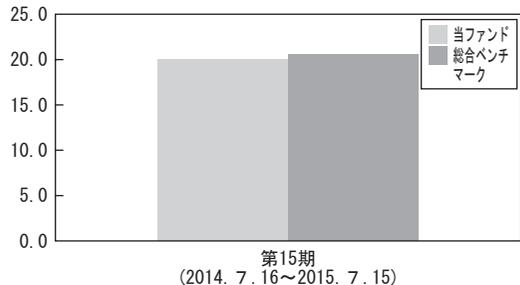
個別資産要因

【マイナス要因】

アロケーション要因

信託報酬等

(%) 基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



(ハッピーエイジング40)

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率(+14.9%)を0.5%下回りました。

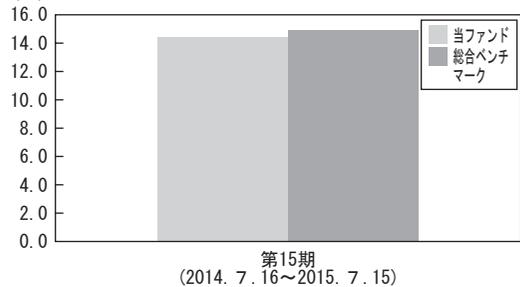
【プラス要因】

- 個別資産要因
- アロケーション要因

【マイナス要因】

- 信託報酬等

(%) 基準価額とベンチマークの対比 (期別騰落率)



(ハッピーエイジング50)

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率(+9.8%)を0.5%下回りました。

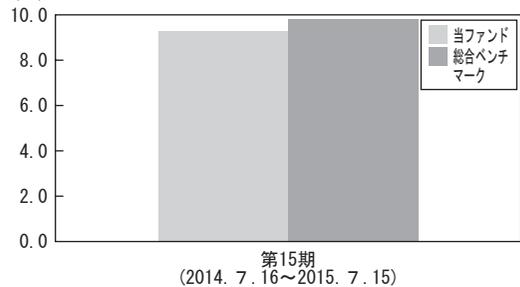
【プラス要因】

- 個別資産要因
- アロケーション要因

【マイナス要因】

- 信託報酬等

(%) 基準価額とベンチマークの対比 (期別騰落率)



(ハッピーエイジング60)

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率(+4.8%)を0.5%下回りました。

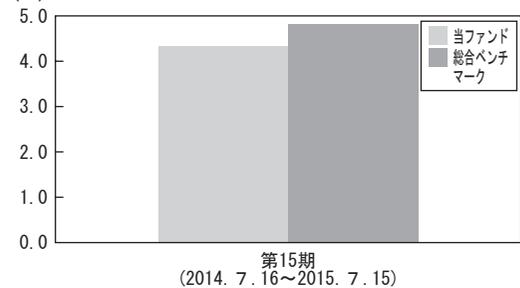
【プラス要因】

- 個別資産要因
- アロケーション要因

【マイナス要因】

- 信託報酬等

(%) 基準価額とベンチマークの対比 (期別騰落率)



期を通じて各マザーファンドを組入れておりましたので、以下ではマザーファンドとベンチマークとの差異の要因分析等についてご説明致します。

<損保ジャパン日本株マザーファンドとベンチマークとの差異>

マザーファンドの騰落率（2014年7月16日～2015年4月9日）は、T O P I Xの騰落率（25.2%）を0.4%上回りました。

業種構成では、不動産業のアンダーウェイトや、化学、保険業のオーバーウェイトなどがプラス要因に、石油・石炭製品、鉄鋼、卸売業のオーバーウェイトなどがマイナス要因になりました。

個別銘柄では、ソフトバンクのアンダーウェイトや、住友重機械工業、K D D Iのオーバーウェイトなどがプラス要因に、三菱瓦斯化学、マツダ、イビデンのオーバーウェイトなどがマイナス要因になりました。

<損保ジャパン-D I A M日本株アクティブ・マザーファンドとベンチマークとの差異>

マザーファンドの騰落率（2014年7月16日～2015年4月13日）は、T O P I Xの騰落率（+24.5%）を0.6%上回りました。

<S J A Mラージキャップ・バリュー・マザーファンドとベンチマークとの差異>

マザーファンドの騰落率（2015年4月14日～2015年7月15日）は、Russell/Nomura Large Cap Value インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス）の騰落率（+6.4%）を1.4%下回りました。

業種構成では、輸送用機器のアンダーウェイトや、情報・通信業、小売業のオーバーウェイトなどがプラス要因に、鉄鋼、海運業のオーバーウェイトや電気・ガス業のアンダーウェイトなどがマイナス要因になりました。

個別銘柄では、第一生命保険、宇部興産、みずほフィナンシャルグループのオーバーウェイトなどがプラス要因に、ヤマダ電機、フジ・メディア・ホールディングス、ツムラのオーバーウェイトなどがマイナス要因になりました。

<S J A Mスモールキャップ・マザーファンドとベンチマークとの差異>

マザーファンドの騰落率（2015年4月14日～2015年7月15日）は、Russell/Nomura Small Cap インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス）の騰落率（+4.1%）を3.1%下回りました。

業種構成では、小売業、石油・石炭製品のオーバーウェイトや、証券、商品先物取引業のアンダーウェイトなどがプラス要因に、鉄鋼、輸送用機器のオーバーウェイトや銀行業のアンダーウェイトなどがマイナス要因になりました。

個別銘柄では、日立キャピタル、青山商事、ノーリツのオーバーウェイトなどがプラス要因に、エディオン、カワチ薬品、オンワードホールディングスのオーバーウェイトなどがマイナス要因になりました。

＜損保ジャパン日本債券マザーファンドとベンチマークとの差異＞

マザーファンドの騰落率は、ベンチマーク（NOMURA-BPI総合指数）の騰落率（+1.9%）を0.4%上回りました。

金利戦略は主に、期初から2014年12月までの長期をアンダーウェイトし、超長期をオーバーウェイトする戦略が奏功し、プラスとなりました。

債券種別戦略は主に事業債、円建外債のオーバーウェイトがプラスとなりました。

個別銘柄戦略は事業債・円建外債・RMBSの銘柄選択がプラスとなりました。

＜損保ジャパンTCW外国株マザーファンドとベンチマークとの差異＞

マザーファンドの騰落率は、ベンチマーク（MSCIコクサイインデックス（円換算ベース））の騰落率（+22.4%）を6.4%上回りました。

市場配分要因がプラスに寄与した一方、銘柄選択要因がマイナスに寄与しました。

＜損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンドとベンチマークとの差異＞

マザーファンドの騰落率は、ベンチマーク（シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース））の騰落率（+12.3%）を0.6%下回りました。

ユーロ圏のロングデュレーション戦略は4月以降、利回りの急上昇を受けて大きくマイナスとなりました。

＜エマーシング株式＞

ベンチマーク（MSCIエマーシング・マーケット・インデックス（円換算ベース））の騰落率（+7.4%）を1.3%上回りました。

■分配金

収益分配金については、基準価額の水準等を勘案し、各ファンドで当期は分配は行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本部分と同一の運用を行います。

＜分配原資の内訳＞

（単位：円、1万口当たり・税引前）

項目	第15期				
	2014年7月16日～2015年7月15日				
	ハッピーエイジング20	ハッピーエイジング30	ハッピーエイジング40	ハッピーエイジング50	ハッピーエイジング60
当期分配金	—	—	—	—	—
（対基準価額比率）	—%	—%	—%	—%	—%
当期の収益	—	—	—	—	—
当期の収益以外	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	7,883	6,620	5,423	3,832	2,399

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。

また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■今後の運用方針

(ハッピーエイジング・ファンド)

マザーファンドの受益証券等への投資を通して、国内株式・国内債券にとどまらず世界各国の株式および債券に積極的に分散投資を行うことによって、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。

(S J A M ラージキャップ・バリュー・マザーファンド)

当社の投資哲学に基づいた運用プロセスを堅持し、独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき銘柄を選択していくことを基本方針とします。今後も、固有の割安要因に着目した個別銘柄選択を中心とするポートフォリオ構築によって、中長期的に着実な信託財産の成長を目指します。

(S J A M スモールキャップ・マザーファンド)

当社の投資哲学に基づいた運用プロセスを堅持し、独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき銘柄を選択していくことを基本方針とします。今後も、固有の割安要因に着目した個別銘柄選択を中心とするポートフォリオ構築によって、中長期的に着実な信託財産の成長を目指します。

(損保ジャパン日本債券マザーファンド)

金利戦略は、イールドカーブの形状や水準の変化に伴って生じる年限間の割安・割高度の変化にに応じて、機動的に残存期間構成を変更します。

債券種別戦略は、事業債・円建外債などの非国債のオーバーウェイト戦略を継続します。

個別銘柄戦略は、A格・BBB格を中心に信用力対比で妙味のある銘柄の購入を検討します。

(損保ジャパン-T C W 外国株式マザーファンド)

米国経済は、消費者センチメントの改善や住宅建設の増加、雇用情勢の改善等を背景に堅調に推移しています。また、年内の利上げ開始が見込まれていますが、利上げのペースは緩やかであると考えられます。一方、欧州経済はギリシャ問題の混乱が懸念されるものの、ギリシャ以外の国では原油安やECBの金融緩和等を受けて、緩やかな経済回復が見込まれます。

当ファンドは各ストラテジーの投資比率を適宜調整し、個別企業のファンダメンタル分析に注力し、いずれの景気局面においても恩恵を十分に受けられるポートフォリオを構築してまいります。

(損保ジャパン外国債券(為替ヘッジなし)マザーファンド)

国別配分については、利回り水準の高いイタリアの短中期ゾーンをオーバーウェイトし、利回り水準が低く魅力に乏しいドイツ・フランス等の短中期ゾーンをアンダーウェイトする戦略を継続します。

デュレーション・残存期間については、利回り水準に応じて、機動的にポジションを変更します。

■お知らせ

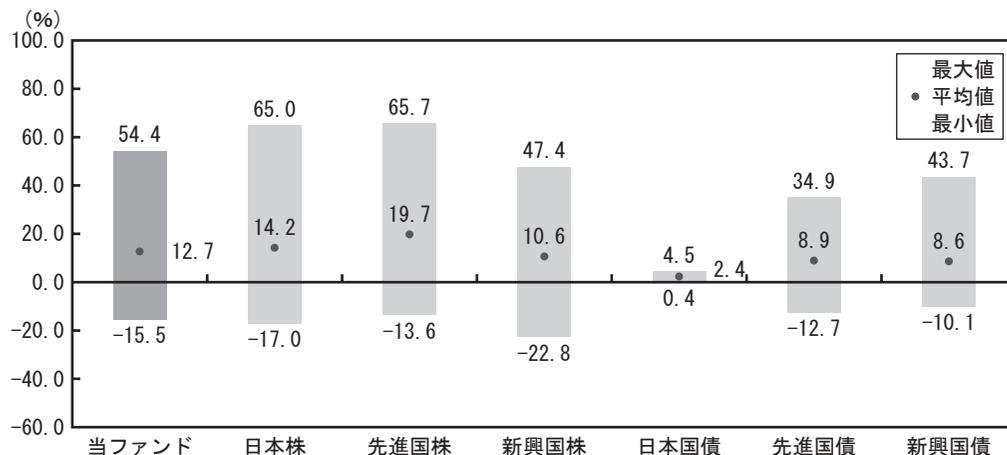
- 投資信託及び投資法人に関する法律および関連法令の改正に伴い、投資信託約款に所要の変更を致しました（2014年12月1日）。
- 主要投資対象とする親投資信託の一部について、「損保ジャパン日本株マザーファンド」および「損保ジャパン-D I AM日本株アクティブ・マザーファンド」から、「S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド」および「S J AMスモールキャップ・マザーファンド」に変更するため、投資信託約款に所要の変更を致しました。また、信託財産留保額の廃止および投資制限の変更のため、投資信託約款に所要の変更を致しました（2015年4月14日）。

■当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	無期限	
運用方針	中長期的に信託財産の着実な成長を目標として運用を行います。	
主要投資対象	ハッピーエイジング20 ハッピーエイジング30 ハッピーエイジング40 ハッピーエイジング50 ハッピーエイジング60	「S J A M ラージキャップ・バリュース・マザーファンド」、「S J A M スモールキャップ・マザーファンド」、「損保ジャパン日本債券マザーファンド」、「損保ジャパン-T C W 外国株式マザーファンド ^{※1} 」の受益証券およびエマージング株式又はエマージング株式を主要投資対象とする証券投資信託 ^{※2} ※1 運用スタイル毎のアロケーションと北米株式の運用指図に関する権限を、TCW INVESTMENT MANAGEMENT COMPANYに委託します。 ※2 パッシブ運用を行う証券投資信託受益証券を組入れる可能性があります。
	S J A M ラージキャップ・バリュース・マザーファンド	わが国の株式
	S J A M スモールキャップ・マザーファンド	わが国の株式
	損保ジャパン日本債券マザーファンド	日本の公社債
	損保ジャパン外国債券 (為替ヘッジなし)マザーファンド	日本を除く世界各国の公社債
	損保ジャパン-T C W 外国株式マザーファンド	日本を除く世界各国の株式
運用方法	<p>①国内株式・国内債券にとどまらず世界各国の株式及び債券に積極的に分散投資を行うことによって、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。</p> <p>②長期的な視点から基準資産配分比率を決定し、当該比率をめどに投資を行います。基準資産配分比率は、次の手順で決定、見直しを行います。</p> <p>③各ファンドの運用は、以下の個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均したものを総合ベンチマークとし、これを上回る運用成果を目指します。</p> <p>国内株式：東証株価指数（TOPIX） 国内債券：NOMURA-BPI総合指数 外国債券：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース） 外国株式：MSCIコクサイ インデックス（円換算ベース） エマージング株式：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（円換算ベース） 短期資産：有担コール翌日物</p>	
分配方針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子、配当収入と売買益（評価損益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>②収益分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p>	

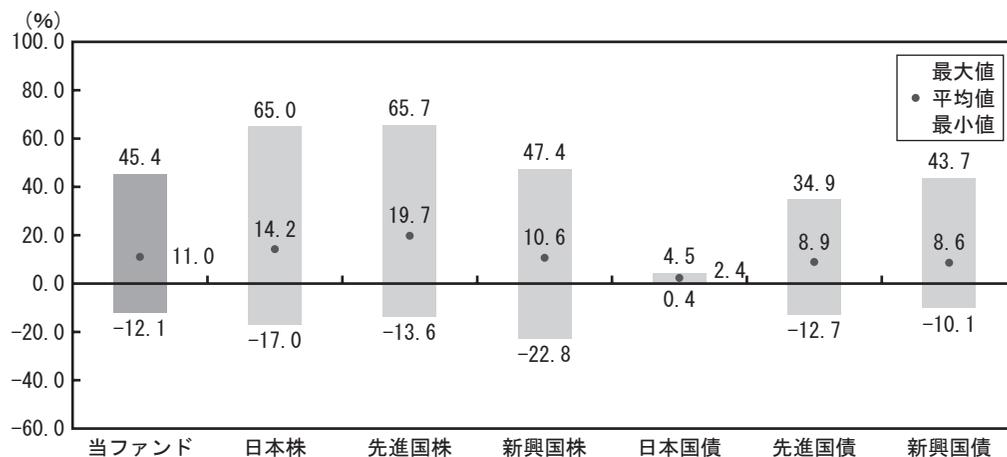
■ 代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(ハッピーエイジング20)



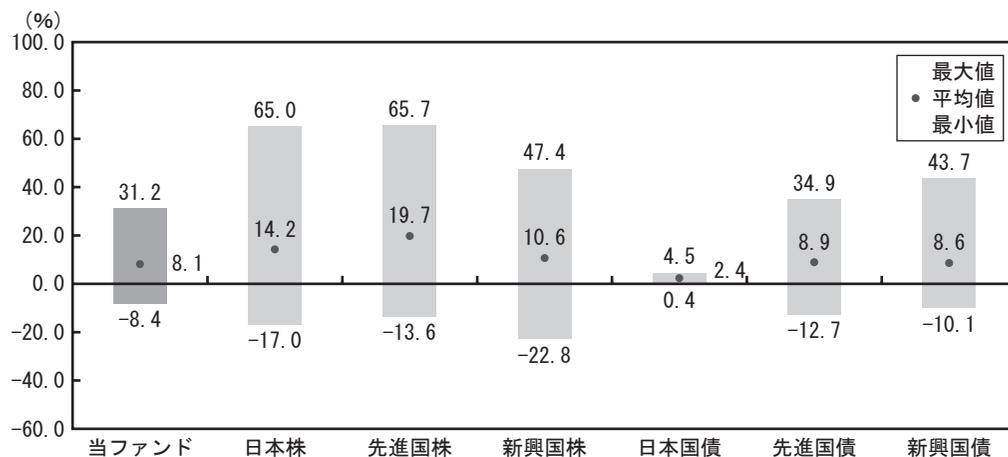
期間：2010年7月～2015年6月

(ハッピーエイジング30)



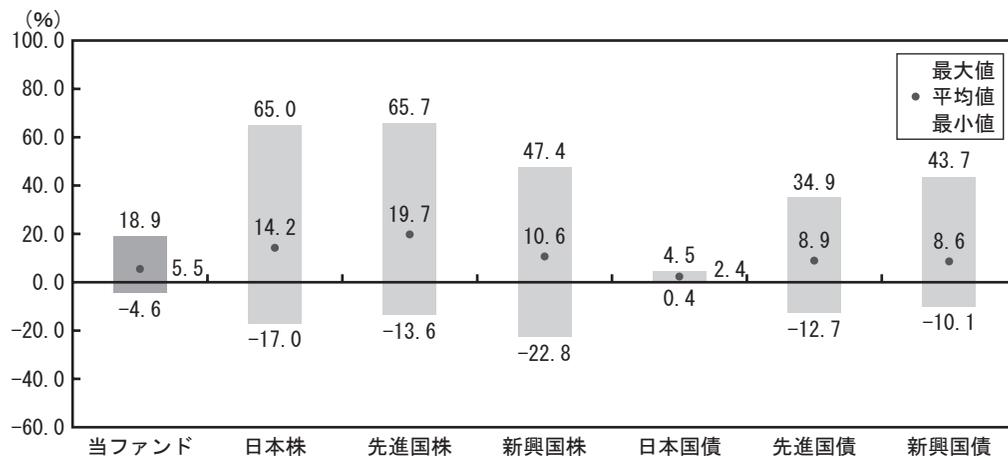
期間：2010年7月～2015年6月

(ハッピーエイジング40)



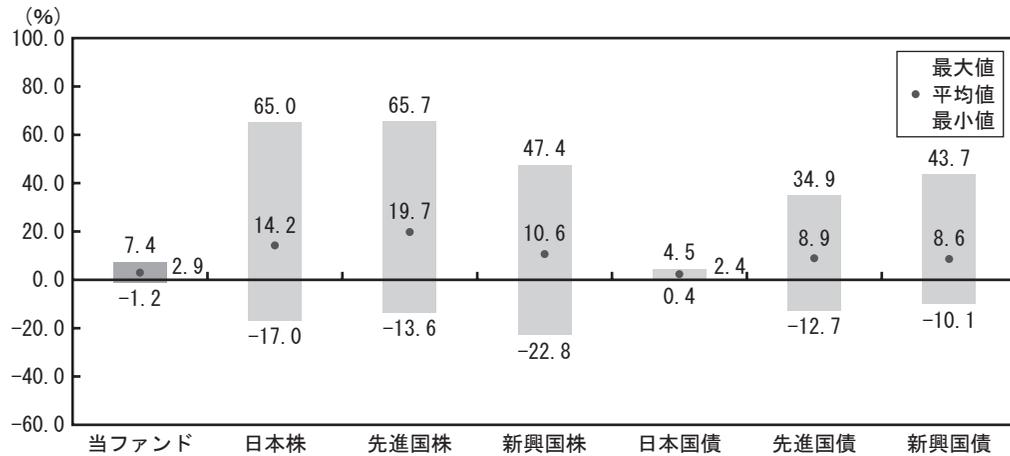
期間：2010年7月～2015年6月

(ハッピーエイジング50)



期間：2010年7月～2015年6月

(ハッピーエイジング60)



期間：2010年7月～2015年6月

* 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、各ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

* 各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株・・・MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI 国債

先進国債・・・シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

- ・当ファンドについては、分配金 (税引前) 再投資基準価額の騰落率です。
- ・全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

■当該投資信託の組入資産の内容

※全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

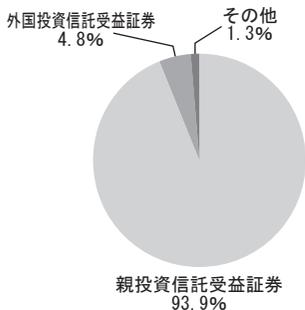
（ハッピーエイジング20）

○組入ファンド

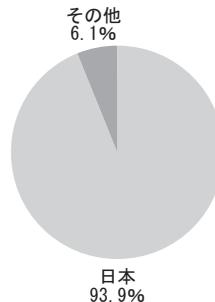
	第15期末
	2015年7月15日
損保ジャパン-T CW外国株式マザーファンド	34.1%
SJAMラージキャップ・バリュー・マザーファンド	26.1%
SJAMスモールキャップ・マザーファンド	25.8%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	5.9%
ISHARES MSCI EMERGING MKT ETF	4.8%
損保ジャパン日本債券マザーファンド	1.9%

（注）比率は第15期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

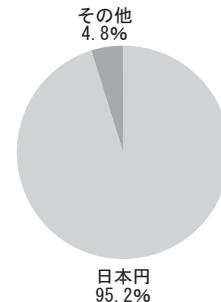
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は第15期末における純資産総額に対する評価額の割合です。資産別配分および国別配分のその他には、現金等が含まれます。

■純資産等

（ハッピーエイジング20）

項目	第15期末
	2015年7月15日
純資産総額	8,801,004,620円
受益権総口数	6,498,541,162口
1万口当たり基準価額	13,543円

※当期中における追加設定元本額は1,446,470,764円、同解約元本額は1,546,505,235円です。

■当該投資信託の組入資産の内容

※全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

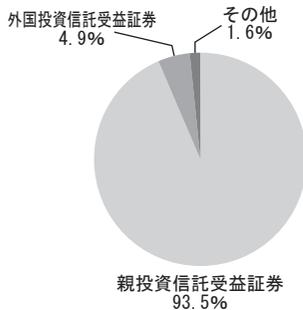
（ハッピーエイジング30）

○組入ファンド

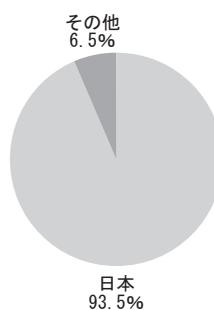
	第15期末
	2015年7月15日
S J A M ラージキャップ・バリュー・マザーファンド	21.9%
S J A M スモールキャップ・マザーファンド	21.7%
損保ジャパン T C W 外国株式マザーファンド	21.6%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	20.5%
損保ジャパン日本債券マザーファンド	7.8%
ISHARES MSCI EMERGING MKT ETF	4.9%

（注）比率は第15期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

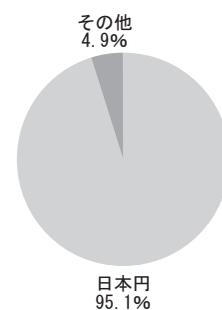
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は第15期末における純資産総額に対する評価額の割合です。資産別配分および国別配分のその他には、現金等が含まれます。

■純資産等

（ハッピーエイジング30）

項目	第15期末
	2015年7月15日
純資産総額	10,450,600,803円
受益権総口数	7,494,536,029口
1万口当たり基準価額	13,944円

※当期中における追加設定元本額は1,083,572,839円、同解約元本額は945,383,122円です。

■当該投資信託の組入資産の内容

※全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

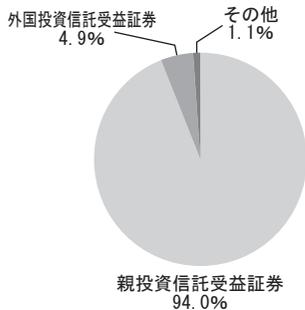
（ハッピーエイジング40）

○組入ファンド

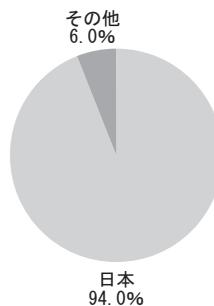
	第15期末
	2015年7月15日
損保ジャパン日本債券マザーファンド	33.8%
SJAMラージキャップ・バリュウ・マザーファンド	15.4%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	15.3%
SJAMスモールキャップ・マザーファンド	15.2%
損保ジャパンーTCW外国株式マザーファンド	14.3%
ISHARES MSCI EMERGING MKT ETF	4.9%

（注）比率は第15期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

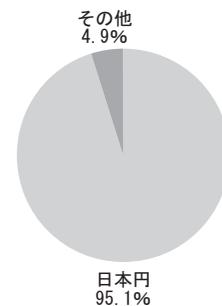
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は第15期末における純資産総額に対する評価額の割合です。資産別配分および国別配分のその他には、現金等が含まれます。

■純資産等

（ハッピーエイジング40）

項目	第15期末
	2015年7月15日
純資産総額	12,378,839,543円
受益権総口数	8,959,866,867口
1万口当たり基準価額	13,816円

※当期中における追加設定元本額は1,360,175,410円、同解約元本額は1,220,689,774円です。

■当該投資信託の組入資産の内容

※全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

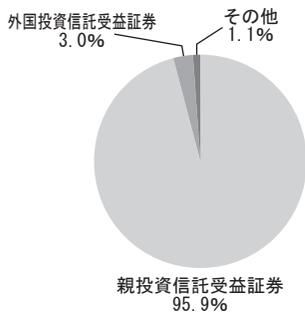
（ハッピーエイジング50）

○組入ファンド

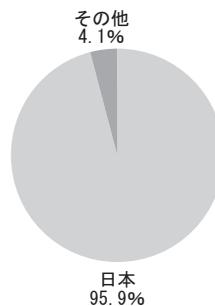
	第15期末
	2015年7月15日
損保ジャパン日本債券マザーファンド	57.5%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	11.1%
SJAMラージキャップ・バリュース・マザーファンド	9.5%
SJAMスモールキャップ・マザーファンド	9.4%
損保ジャパンーTCW外国株式マザーファンド	8.3%
ISHARES MSCI EMERGING MKT ETF	3.0%

（注）比率は第15期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

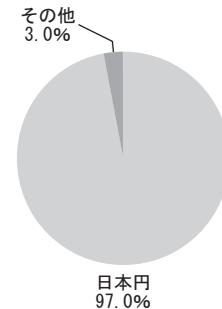
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は第15期末における純資産総額に対する評価額の割合です。資産別配分および国別配分のその他には、現金等が含まれます。

■純資産等

（ハッピーエイジング50）

項目	第15期末
	2015年7月15日
純資産総額	5,534,439,620円
受益権総口数	4,146,666,984口
1万口当たり基準価額	13,347円

※当期中における追加設定元本額は849,878,441円、同解約元本額は721,397,173円です。

■当該投資信託の組入資産の内容

※全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

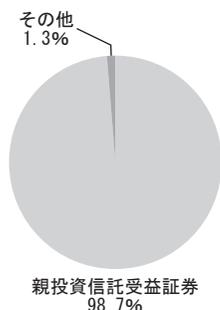
（ハッピーエイジング60）

○組入ファンド

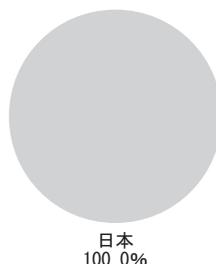
	第15期末
	2015年7月15日
損保ジャパン日本債券マザーファンド	82.5%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	6.1%
損保ジャパン-TCW外国株式マザーファンド	4.2%
SJAMラージキャップ・パリュウ・マザーファンド	3.0%
SJAMスモールキャップ・マザーファンド	3.0%

（注）比率は第15期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は第15期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

■純資産等

（ハッピーエイジング60）

項目	第15期末
	2015年7月15日
純資産総額	3,292,018,524円
受益権総口数	2,655,013,590口
1万口当たり基準価額	12,399円

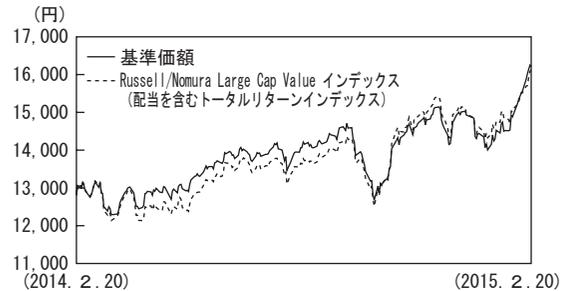
※当期中における追加設定元本額は649,247,886円、同解約元本額は545,147,386円です。

■組入上位ファンドの概要

※組入ファンドの計算期間の詳細な運用経過および全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

<S J A Mラージキャップ・バリュー・マザーファンド>

○基準価額の推移



・ベンチマーク（Russell/Nomura Large Cap Value インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス））の推移は、2014年2月20日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

○組入上位10銘柄

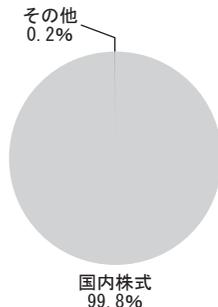
	銘柄名	業種	比率
1	三菱商事	卸売業	8.4%
2	ジェイエフイーホールディングス	鉄鋼	8.3%
3	MS&ADインシュアランスグループホールディングス	保険業	7.4%
4	ヤマダ電機	小売業	7.2%
5	JXホールディングス	石油・石炭製品	6.8%
6	住友商事	卸売業	6.7%
7	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	5.8%
8	三井物産	卸売業	5.5%
9	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	5.3%
10	ツムラ	医薬品	4.9%
組入銘柄数		22銘柄	

○1万円当たりの費用明細

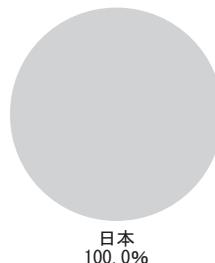
(2014年2月21日～2015年2月20日)

項目	
売買委託手数料 (株式)	26円 (26)
合計	26

○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万円当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

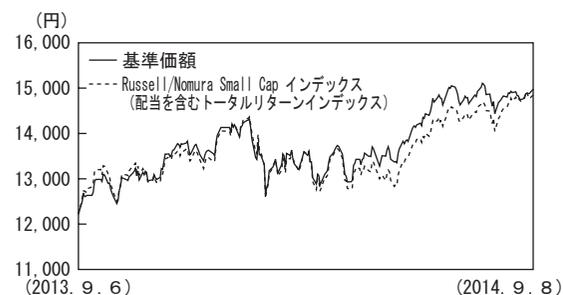
(注2) 1万円当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については7ページ（1万円当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

(注3) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2015年2月20日）現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

<S J A Mスモールキャップ・マザーファンド>

○基準価額の推移



・ベンチマーク (Russell/Nomura Small Cap インデックス (配当を含むトータルリターンインデックス)) の推移は、2013年9月6日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

○組入上位10銘柄

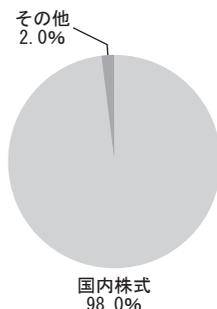
	銘柄名	業種	比率
1	ケーズホールディングス	小売業	2.8%
2	エディオン	小売業	2.5%
3	東海理化電機製作所	輸送用機器	2.2%
4	西日本シティ銀行	銀行業	2.2%
5	新光電気工業	電気機器	2.1%
6	百五銀行	銀行業	2.1%
7	日立工機	機械	2.1%
8	大和工業	鉄鋼	2.1%
9	レンゴー	パルプ・紙	2.0%
10	ユニグループ・ホールディングス	小売業	2.0%
組入銘柄数		75銘柄	

○1万円当たりの費用明細

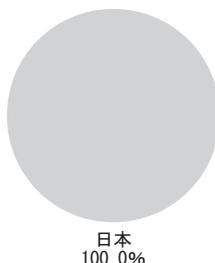
(2013年9月7日～2014年9月8日)

項目	
売買委託手数料 (株式)	23円 (23)
合計	23

○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万円当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 1万円当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については7ページ(1万円当たりの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

(注3) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日(2014年9月8日)現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

<損保ジャパン日本債券マザーファンド>

○基準価額の推移



・ベンチマーク (NOMURA-BPI 総合指数) の推移は、2014年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

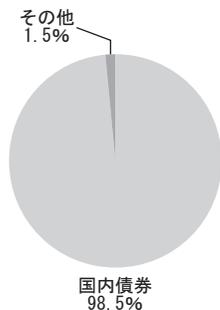
○組入上位10銘柄

	銘柄名	債券種類	償還日	比率
1	339 10年国債	国債証券	2025/6/20	9.1%
2	337 10年国債	国債証券	2024/12/20	6.8%
3	352 2年国債	国債証券	2017/5/15	4.4%
4	148 20年国債	国債証券	2034/3/20	4.2%
5	350 2年国債	国債証券	2017/3/15	4.2%
6	353 2年国債	国債証券	2017/6/15	3.6%
7	120 5年国債	国債証券	2019/9/20	3.5%
8	152 20年国債	国債証券	2035/3/20	3.4%
9	151 20年国債	国債証券	2034/12/20	3.3%
10	43 30年国債	国債証券	2044/6/20	3.1%
組入銘柄数			78銘柄	

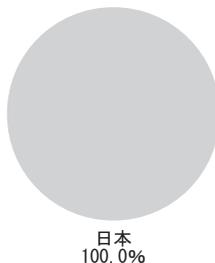
○1万口当たりの費用明細

当該期間 (2014年7月16日~2015年7月15日) における費用はありません。

○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日 (2015年7月15日) 現在のものです。

(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

<損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド>

○基準価額の推移



・ベンチマーク（シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース））の推移は、2014年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

○1万口当たりの費用明細

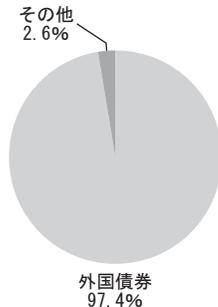
（2014年7月16日～2015年7月15日）

項目	
その他費用 （保管費用）	7円 (7)
合計	7

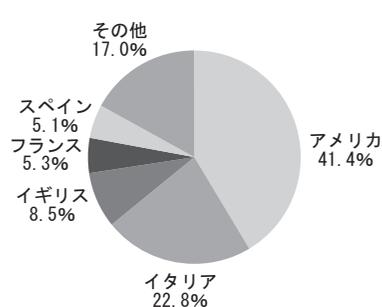
○組入上位10銘柄

	銘柄名	債券種類	通貨	償還日	比率
1	US TREASURY N/B 0.875% 2017/05/15	国債証券	アメリカ・ドル	2017/5/15	13.9%
2	BTPS 4.25 2020/03/01	国債証券	ユーロ	2020/3/1	9.5%
3	US TREASURY N/B 1.0 2016/08/31	国債証券	アメリカ・ドル	2016/8/31	8.7%
4	BTPS 1.35% 2022/04/15	国債証券	ユーロ	2022/4/15	7.6%
5	US TREASURY N/B 0.25% 2016/04/15	国債証券	アメリカ・ドル	2016/4/15	5.4%
6	US TREASURY N/B 3.0% 2045/05/15	国債証券	アメリカ・ドル	2045/5/15	3.8%
7	FRANCE O. A. T. 1.75% 2024/11/25	国債証券	ユーロ	2024/11/25	2.8%
8	US TREASURY N/B 0.75% 2017/12/31	国債証券	アメリカ・ドル	2017/12/31	2.1%
9	SPANISH GOVT 4.85% 2020/10/31	国債証券	ユーロ	2020/10/31	2.0%
10	BTPS 5.0 2025/03/01	国債証券	ユーロ	2025/3/1	1.8%
組入銘柄数			116銘柄		

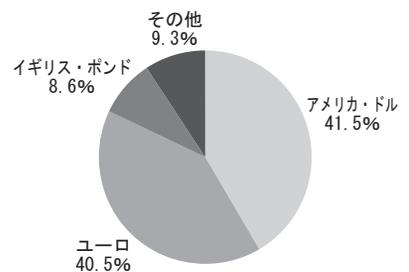
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注1）基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

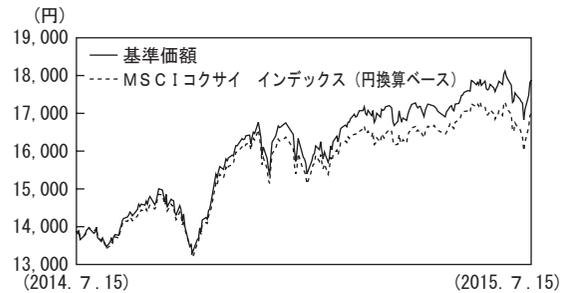
（注2）1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については7ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

（注3）組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2015年7月15日）現在のものです。資産別配分および国別配分のその他には、現金等が含まれます。

（注4）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

<損保ジャパン-T CW外国株式マザーファンド>

○基準価額の推移



・ベンチマーク（MSCI Cokosai インデックス（円換算ベース））の推移は、2014年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

○1万口当たりの費用明細

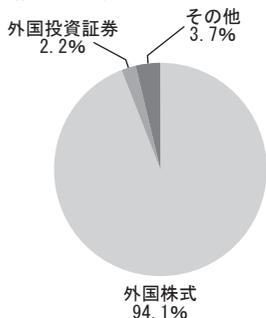
（2014年7月16日～2015年7月15日）

項目	
売買委託手数料 （株式） （投資証券）	14円 (13) (0)
有価証券取引税 （株式） （投資証券）	3 (3) (0)
その他費用 （保管費用） （その他）	11 (10) (1)
合計	27

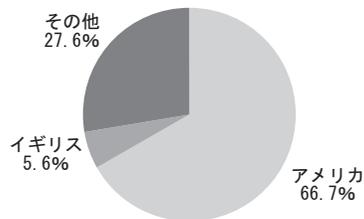
○組入上位10銘柄

	銘柄名	業種	通貨	比率
1	SALESFORCE.COM INC	情報技術	アメリカ・ドル	2.1%
2	GOOGLE INC-CL C	情報技術	アメリカ・ドル	1.8%
3	CERNER CORP	ヘルスケア	アメリカ・ドル	1.7%
4	VISA INC-CLASS A SHARES	情報技術	アメリカ・ドル	1.7%
5	STARBUCKS CORP	一般消費財・サービス	アメリカ・ドル	1.7%
6	ILLUMINA INC	ヘルスケア	アメリカ・ドル	1.6%
7	FACEBOOK INC-A	情報技術	アメリカ・ドル	1.5%
8	CELGENE CORP	ヘルスケア	アメリカ・ドル	1.5%
9	THE PRICELINE GROUP INC	一般消費財・サービス	アメリカ・ドル	1.5%
10	MOBILEYE NV	一般消費財・サービス	アメリカ・ドル	1.4%
	組入銘柄数		290銘柄	

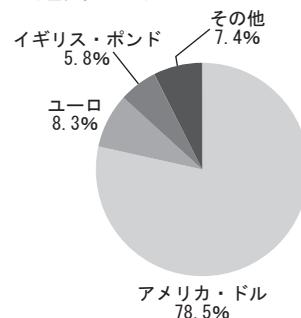
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。
 (注2) 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については7ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。
 (注3) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2015年7月15日）現在のものです。資産別配分および国別配分のその他には、現金等が含まれます。
 (注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

■指数に関して

○当ファンドのベンチマークについて

当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマークを基準資産配分比率で加重平均したもので個別資産毎のベンチマークは次の通りです。国内株式：東証株価指数（TOPIX）、国内債券：NOMURA-BPI総合指数、外国債券：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）、外国株式：MSCIコクサイ インデックス、（円換算ベース）、エマージング株式：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（円換算ベース）、短期資産：有担コール翌日物

○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）とは、東京証券取引所第一部上場全銘柄の基準時（1968年1月4日終値）の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。東証株価指数（TOPIX）は、東京証券取引所の知的財産であり、東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界主要国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成した株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は、同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）は、MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）をもとに委託会社が独自に計算したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は、同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村証券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。NOMURA-BPIに関する一切の知的財産権その他一切の権利は、すべて野村証券株式会社に帰属します。野村証券株式会社は、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はCitigroup Index LLCに帰属します。また、Citigroup Index LLCは同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

JPMorganGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ベース）

JPMorganGBI-EMグローバル・ディバースファイドは、J.P. Morgan Securities LLCが算出し公表している指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。同指数の著作権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。



損保ジャパン日本興亜
アセットマネジメント